

各感染症対策主管課長
各医師会会長 殿
定点観測医療機関長

福岡県医師会
会長 平田 泰彦
(公印省略)

福岡県結核・感染症発生動向調査解析委員会 週報

週報 令和8年—第38週 (R8. 9. 14~R8. 9. 20)

定点	病 名	定点報告数 (○：警報レベル、□：注意報レベル)						1定点当たり	
		33週	34週	35週	36週	37週	38週	福岡県	全国
								38週	
		8/10～	8/17～	8/24～	8/31～	9/7～	9/14～	9/14～	
ARI	急性呼吸器感染症	3095	4600	5142	5861	6563	7732	63. 38	66. 37
	インフルエンザ	58	81	161	323	541	652	5. 34	8. 48
	新型コロナ感染症	89	108	72	115	106	89	0. 73	2. 65
小児科	RSウイルス感染症	99	112	134	112	165	133	1. 90	1. 24
	咽頭扁桃炎	32	35	32	59	60	59	0. 84	0. 25
	A群溶菌菌咽頭炎	75	91	125	139	170	141	2. 01	1. 48
	感染性胃腸炎	198	403	447	419	430	392	5. 60	3. 70
	水痘	24	19	20	11	22	27	0. 39	0. 22
	手足口病	44	71	52	60	55	71	1. 01	1. 36
	伝染性紅斑	0	1	1	3	1	0	0. 00	0. 03
	突発性発しん	16	35	37	35	33	29	0. 41	0. 30
	ヘルパンギーナ	36	35	21	25	22	44	0. 63	1. 30
	流行性耳下腺炎	1	7	1	3	1	6	0. 09	0. 04
	川崎病（MCLS）	10	6	7	2	2	6	0. 09	
	マイコプラズマ肺炎	7	9	14	14	5	10	0. 14	
	細菌性咽頭炎	1	0	1	0	0	0	0. 00	
	無菌性咽頭炎	0	0	0	0	0	0	0. 00	
	眼科	急性出血性結膜膜炎	5	2	1	0	0	0	0. 00
流行性角結膜炎		34	110	127	108	125	93	3. 58	0. 63

月報 令和8年—8月 (R8.8.1~R8.8.31) (STD 定点数37)

病 名	定点報告数	前月比	主な増加地区等	1定点当たりの患者数	
				福岡県	全 国
性器クラミジア感染症	108	89%	福岡44、北九州38	2. 92	2. 23
性器ヘルペス	38	62%	福岡17、北九州13	1. 03	0. 93
尖圭コンジローマ	19	146%	筑後6、北九州6	0. 51	0. 51
淋菌感染症	29	107%	福岡14、筑後6	0. 78	0. 63

■ 総 評

▽ 2026年第38週: R8.9/14-9/20はインフルエンザが連続増加し定点当り福岡県は5.34と4週連続1.0以上(全国8.48)、キットはA型254人、B型0人とA型が多い。新型コロナは定点当り0.73(全国は2.65)とやや多発が続く。手足口病は第22週から30週まで警報レベルだったが減少し発生が続く。感染性胃腸炎ではノロウイルスの報告が続く。流行性角結膜炎が多発傾向。ヒトメタニューモウイルス感染症の報告も続く。麻疹が県内から前々週1例、前週5例、今週12例あり、今後の発生にご注意下さい。
検査定点医療機関には手足口病・ヘルペンギーナの検体提出をお願いします。

■ ARI (R7.15週より内科定点数78-52 ※ARI 定点は内科定点と小児科定点によって構成)

- ※ 急性呼吸器感染症: 5週前から3095、4600、5142、5861、6563、7732と推移。
- ※ インフルエンザ: 連続増加、定点当り5.34と4週連続1.0以上(前週4.43; 20歳以上31.4%)、キットではA型254人、B型0人とA型が多い。全国定点当り8.48(前週5.54)。
- ※ 新型コロナ感染症: やや多発が続く(20歳以上60.7%)、定点当り0.73(前週0.87)、全国定点当り2.65(前週2.44)。

■ 小児科 (R7.15週より小児科定点数120→70)

- ※ RSウイルス感染症: 4歳以上4人。
- ※ A群溶レン菌咽頭炎: 発疹合併: 6歳男。
- ※ 感染性胃腸炎: 3歳以下51.5%。ノロウイルスの報告が続く。
 - ・カンピロバクター: 6歳男、9歳女、10歳男、女、11歳女、12歳女、14歳男。
 - ・ロタウイルス: 報告なし。
 - ・アデノウイルス: 1歳男。
 - ・ノロウイルス: 1歳男、女、2歳男、女、5歳男。
- ※ 水痘: 15歳以上3人。ワクチン済例: 3歳女(R5. 12/19にVZ348、R6. 7/8にVZ360; 中等症)、6歳女(R3. 7/10にVZ312、R3. 12/25にVZ324; 軽症)、8歳男(R2. 5/15にVZ278、R2. 10/7にVZ290; 軽症)、8歳女(R1. 9/20にVZ260、R3. 4/23にVZ308; 中等症)、9歳女(H29. 11/21にVZ211、H30. 6/26にVZ221; 中等症)、15歳女(H24. 6/1にVZ076; 中等症)。
- ※ 手足口病: 第22週から30週まで警報レベルだったが減少し発生が続く。
- ※ ヘルパンギーナ: 発生が続く。
- ※ 流行性耳下腺炎: 15歳以上0人。ワクチン済例: 10歳男(H29. 3/24にLFD47A、H31. 4/16にLFD74A; 軽症)。
- ※ マイコプラズマ肺炎: 15歳以上2人。遺伝子検査: 1歳女、4歳男。抗体検査: 3歳女(PA: 320)、13歳男(160)。
- ※ その他の疾患: ヒトメタニューモ: 前週23人、今週22人と変動。

■ 眼科 (眼科定点数26)

- ※ 流行性角結膜炎: 多発傾向が続く。キット陽性: 2歳女、4歳女、6歳男、9歳女、11歳男、15歳男、20歳男、22歳女、23歳女、28歳男、20代女、31歳女、32歳男、女、33歳男、35歳男、39歳女、44歳女、49歳男、73歳女。

■ 基幹 (基幹定点数15)

基幹定点

- ※ マイコプラズマ肺炎: 16歳男。
- ※ 無菌性髄膜炎: 27歳男(エンテロウイルス)。

■ 全数報告

- ※ 腸管出血性大腸菌: 全国今週147人、全国累計3245人、福岡県今週3人、福岡県累計162人。
- ※ エムポックス: 全国第38週に2人、全国累計130人(R7年23人)。
- ※ 重症熱性血小板減少症候群: 全国第38週に3人、全国累計145人、福岡県第35週に1人、福岡県累計7人。
- ※ デング熱: 全国第38週に9人、全国累計99人、福岡県第35週に1人、福岡県累計2人。
- ※ 日本脳炎: 全国第38週に0人、全国累計2人(千葉1、愛媛1; R7年4人)。
- ※ 劇症型溶レン菌感染症: 全国累計938人、福岡県累計46人。
- ※ 梅毒: 全国累計8390人、福岡県累計526人。
- ※ 百日咳: 全国累計4440人、福岡県累計213人。
- ※ 風しん: 全国第38週に0人、全国累計4人(埼玉1、東京1、神奈川1、三重1; R7年11人)。
- ※ 麻しん: 全国第38週に15人(東京2、福岡12、熊本1)、全国累計574人(北海道～沖縄; 福岡22、長崎2、熊本3、宮崎1、鹿児島34、沖縄2; R7年265人)。

※ 福岡県医師会ホームページの感染定数情報にも掲載されていますので下記URL及びQRコードよりご参照下さい。

URL: https://www.fukuoka.med.or.jp/doctors/kansenshou/_11717.html

ホーム>医師の皆様>感染症・予防接種>感染症発生動向調査

結核・感染症発生動向調査委員会
委員長 青木 知信



定点把握対象疾患 1 定点医療機関当たり患者数 【保健所別】

定点把握対象疾患 報告数 【年齢階級別】

[illegible]

全数把握対象疾患発生状況

令和8年－第38週(R8.9.14～R8.9.20)

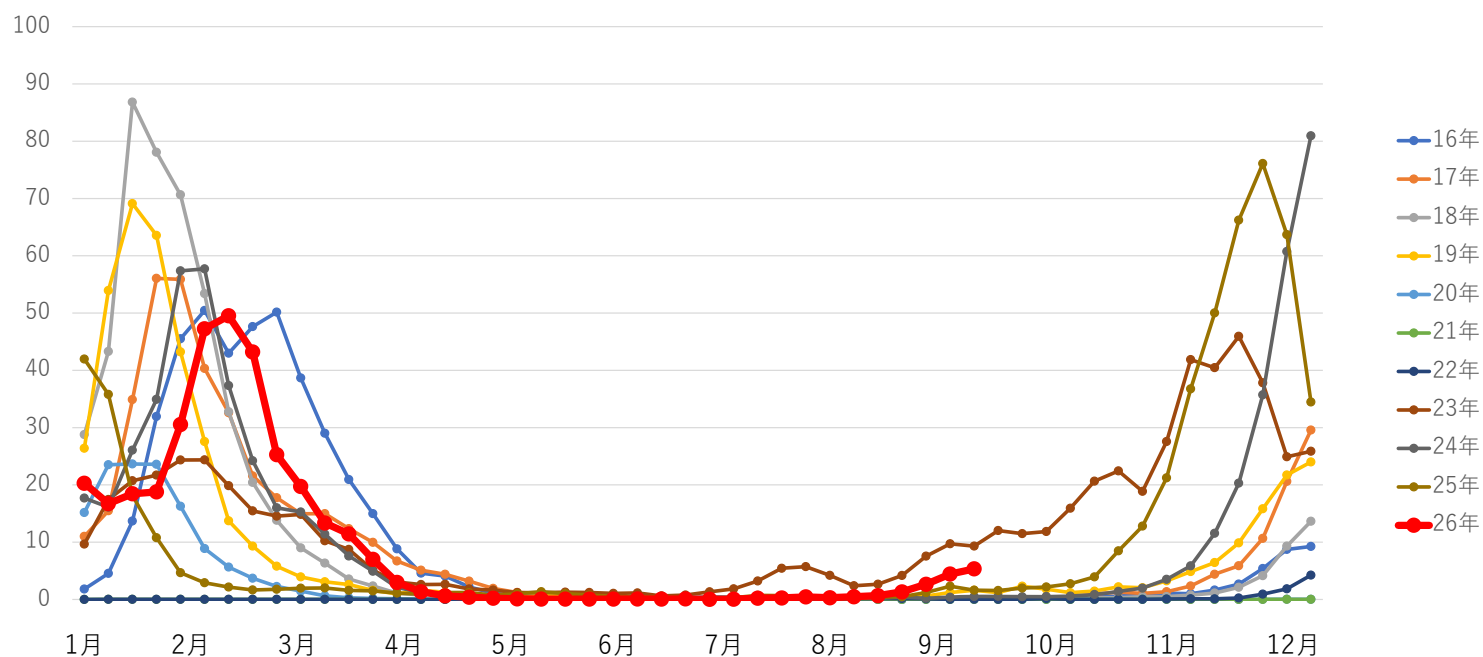
感染症 類 型	日付 疾病名	福岡累計					福岡					全国
		2021	2022	2023	2024	2025	35週	36週	37週	38週	26年 累計	38週
二類	結核	757	733	718	883	773	10	24	15	8	572	261
三類	細菌性赤痢			1	2	5					5	1
	腸管出血性大腸菌感染症	182	254	215	172	284	8	2	6	3	162	147
	腸チフス			2	3	4						
	パラチフス											
四類	E型肝炎	6	1	9	8	6					2	6
	A型肝炎	2	5	3	11	10		1	1		6	15
	エムボックス			1	1							2
	ジカウイルス感染症			1								
	重症熱性血小板減少症候群	1	5	2	4	5	1				7	3
	チクングニア熱		1	1	1	5						
	つつが虫病	3	7	6	1	5						
	デング熱		10	14	10	12	1				2	9
	日本紅斑熱	7	6	11	8	17	2		2		7	30
	ボツリヌス症											
	マラリア		1	2	1						1	
	ライム病		1	1		1						
	レジオネラ症	60	71	89	77	75		1	3	2	50	86
	レプトスピラ症	1	3		3	2						1
五類	アメーバ赤痢	17	26	22	25	23				1	15	9
	ウイルス性肝炎	8	6	9	6	10					1	2
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	128	110	112	147	75		2			45	21
	急性弛緩性麻痺		3	5	1	1					1	
	急性脳炎	22	22	35	29	37			1	1	27	8
	クリプトスポリジウム症			2	1							
	クロイツフェルト・ヤコブ病	7	9	6	6	5					6	2
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	23	32	48	67	68	2	1		3	46	17
	後天性免疫不全症候群	54	63	59	56	42	3	2			44	15
	ジアルジア症	2	2	1	3						1	2
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	14	13	19	28	30	1				26	6
	侵襲性髄膜炎菌感染症		1		3	3						2
	侵襲性肺炎球菌感染症	81	64	89	116	128	1				86	16
	水痘(入院例に限る)	16	5	12	27	33					23	8
	梅毒	348	566	942	880	770	10	6	15	11	526	146
	播種性クリプトコックス症	5	3	10	7	13					10	2
	破傷風	2	3	6	1						4	2
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	3	5	4		2					1	
	百日咳	29	25	24	216	3232	6	4	2	7	213	91
	風しん		1	1								
	麻しん	1			1	22		1	5	12	22	15
	薬剤耐性アシネトバクター感染症	1	1									
計		1780	2058	2482	2805	5698	45	44	50	48	1,911	925

全数把握対象疾患発生状況（保健所別）
令和8年－第38週（R8.9.14～R8.9.20）

感染症 類 型	疾病名	保健所												計
		北九州市	福岡市	久留米市	宗像・遠賀	粕屋	筑紫	糸島	田川	北筑後	南筑後	京築	嘉穂・鞍手	
二類	結核		3	2			1				1		1	8
三類	細菌性赤痢													
	腸管出血性大腸菌感染症		2								1			3
	腸チフス													
	パラチフス													
四類	E型肝炎													
	A型肝炎													
	エムボックス													
	ジカウイルス感染症													
	重症熱性血小板減少症候群													
	チクングニア熱													
	つつが虫病													
	デング熱													
	日本紅斑熱													
	ポツリヌス症													
	マラリア													
	ライム病													
	レジオネラ症		1								1			2
	レプトスピラ症													
五類	アメーバ赤痢		1											1
	ウイルス性肝炎													
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症													
	急性弛緩性麻痺													
	急性脳炎			1										1
	クリプトスポリジウム症													
	クロイツフェルト・ヤコブ病													
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症									1	1	1		3
	後天性免疫不全症候群													
	ジアルジア症													
	侵襲性インフルエンザ菌感染症													
	侵襲性髄膜炎菌感染症													
	侵襲性肺炎球菌感染症													
	水痘（入院例に限る）													
	梅毒		8				1				1		1	11
	播種性クリプトコックス症													
	破傷風													
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症													
	百日咳		6			1								7
	風しん													
	麻しん		9			1	1						1	12
	薬剤耐性アシネトバクター感染症													
計			30	3		2	3			1	5	1	3	48

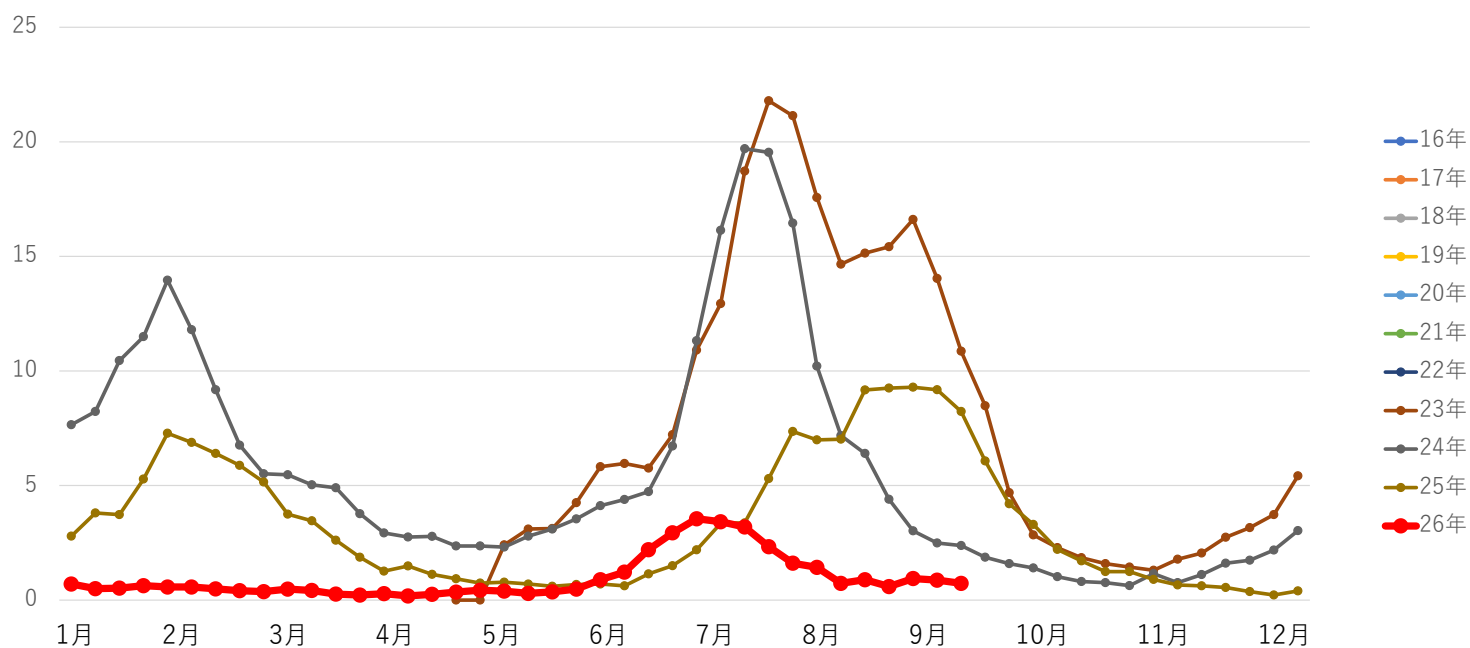
インフルエンザ 疾病毎定点当たり報告数（過去10年間との比較）

（定点値）



新型コロナウイルス感染症 疾病毎定点当たり報告数（過去10年間との比較）

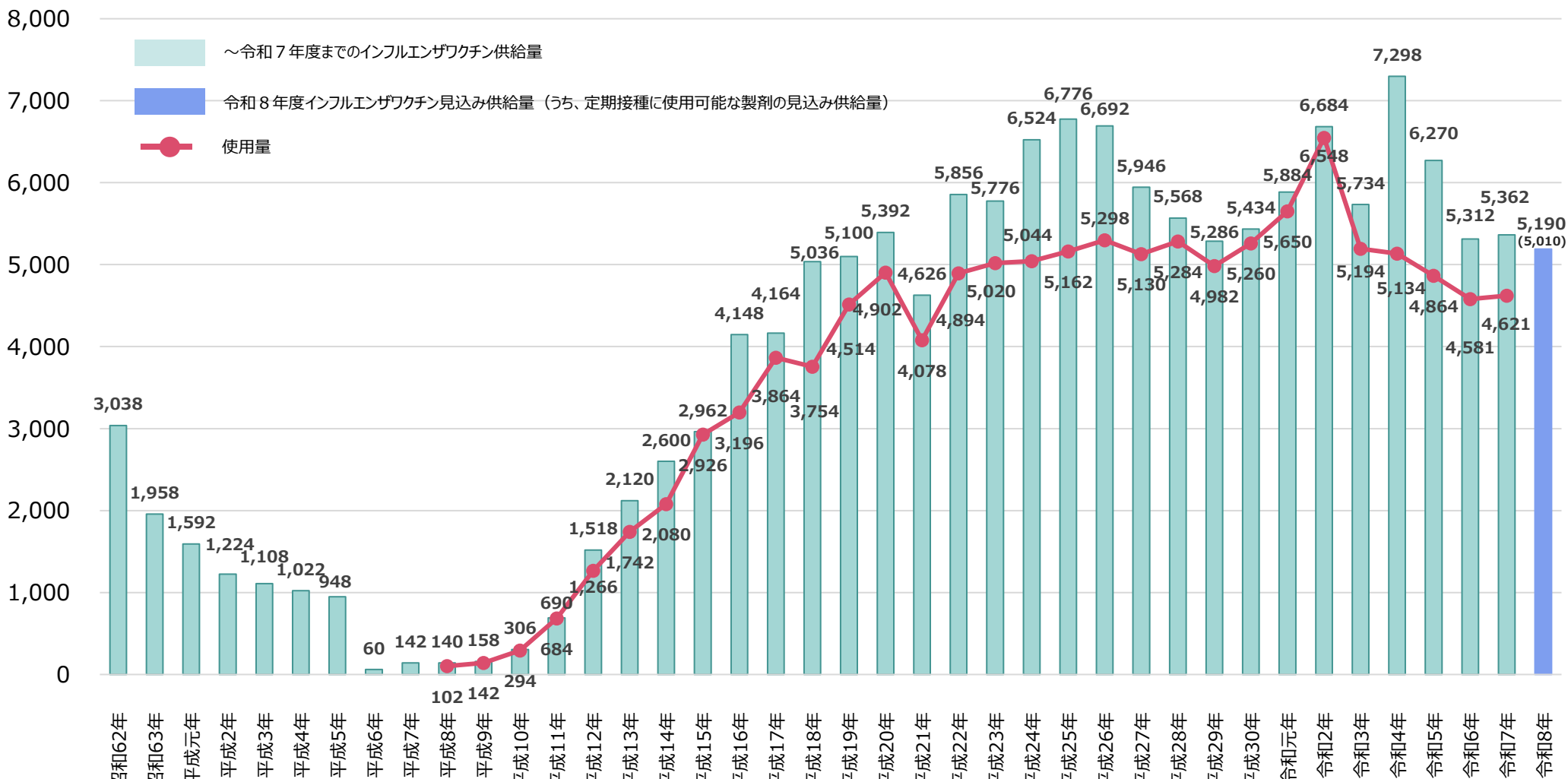
（定点値）



インフルエンザワクチンの供給量の年次推移

○ 2026/27シーズン（令和8年度）のワクチンの供給量は、約5,190万回分となる見込み。

万回分【令和8年8月時点】



※1 平成7年以前の使用量は不明 ※2 使用量は医療機関への納入数量を基に算出

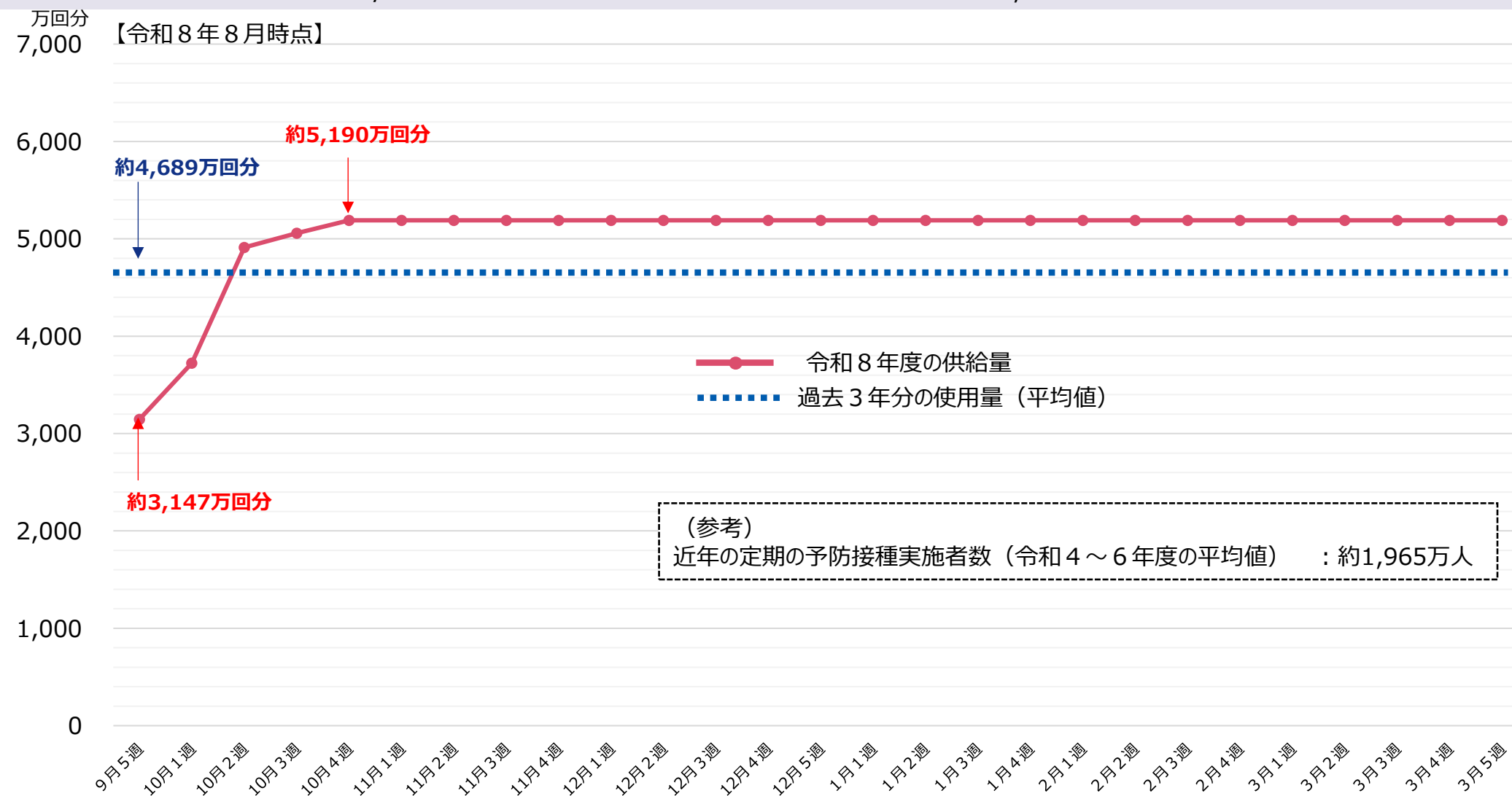
※3 供給量はインフルエンザHAワクチン 0.5 mL/回換算、経鼻弱毒生インフルエンザワクチン 0.2mL/回換算の合算

※4 平成27年度から令和6年度は、4価インフルエンザHAワクチンが供給されていたが、令和7年度からは3価インフルエンザHAワクチンが供給されている

インフルエンザワクチンの累積供給量（週次）

○ 9月5週時点で、2026/27シーズン（令和8年度）の供給量の6割を超える約3,147万回分が出荷される見込み。

【令和8年8月時点】



注1) 供給量は、インフルエンザHAワクチン 0.5 mL/回換算、経鼻弱毒生インフルエンザワクチン 0.2mL/回換算の合算

注2) 週の表示は金曜日を基準としている（例：9月5週は、10/2時点の供給量を示している）

注3) 使用量は医療期間への納入数量をもとに算出

(参考) 定期の予防接種実施者数（厚生労働省）

新型コロナワクチンの見込み供給量（2026年8月25日時点）

○ 2026/27シーズン（令和8年度）のワクチン供給量は、約702万回分となる見込み。

企業名	ファイザー株式会社	モデルナ・ジャパン株式会社	第一三共株式会社	MeijiSeikaファルマ株式会社	武田薬品工業株式会社
販売名	コナティ®	エムネクスパイク®	ダイチロナ®	コスタイベ®	ヌバキソビッド®
剤形※ ¹	プレフィルドシリンジ製剤（1回分）		バイアル製剤（1回分）	バイアル製剤（2回分）	
抗原組成	オミクロン株XFG	オミクロン株XFG	オミクロン株NB.1.8.1	オミクロン株NB.1.8.1	オミクロン株XFG
モダリティ	mRNA			mRNA（レプリコン）	組換えタンパク
ワクチン見込み供給量※ ²	約548万回			約52万回	約102万回
	合計 約702万回				

（参考） 令和7年度の新型コロナワクチンの使用量 約403万回（医療機関への納入数量を基に算出）

※ 1：12歳以上を対象とした製剤の剤形。

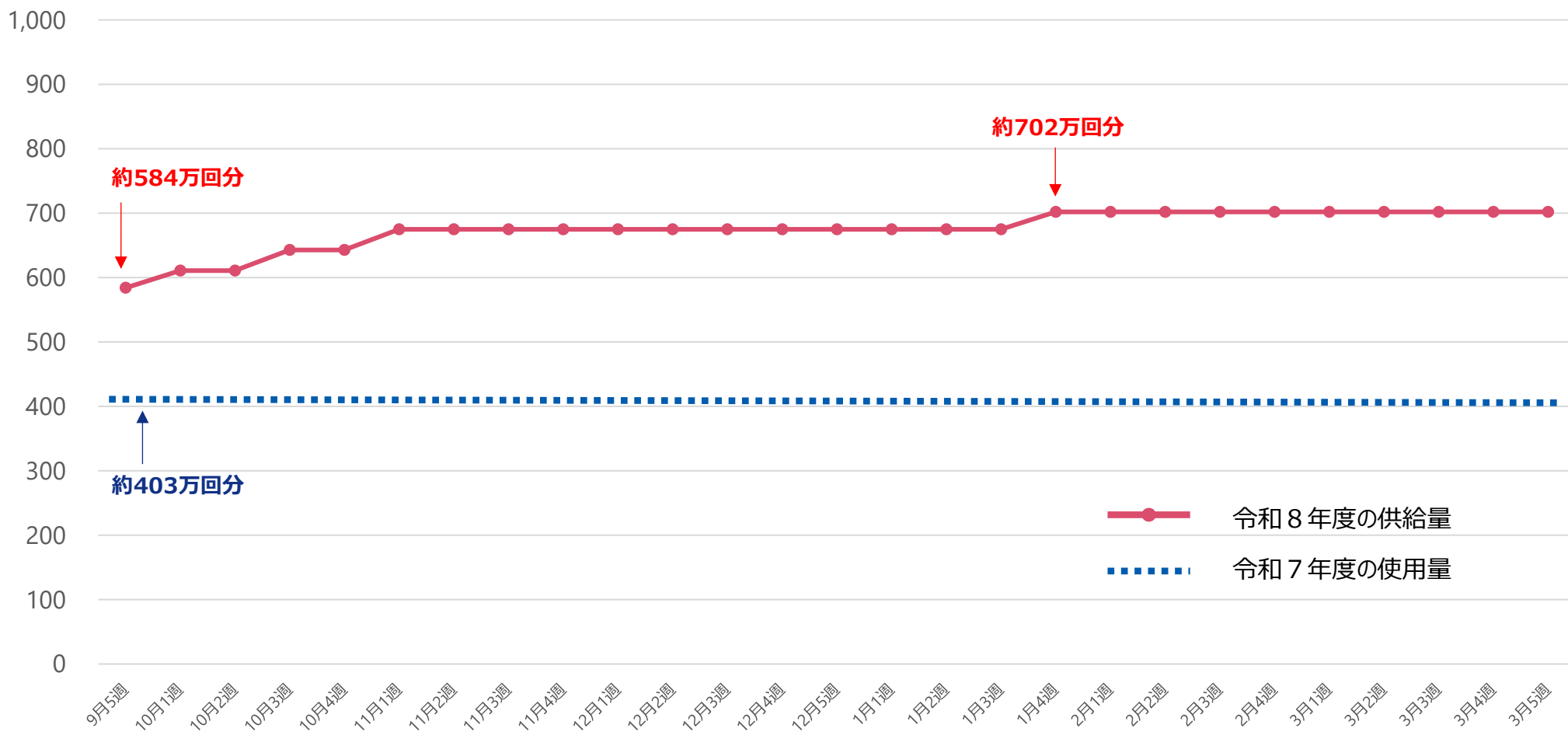
※ 2：2026/27シーズン（令和8年度）の新型コロナワクチンの供給を見込む各企業からのヒアリング情報をもとに作成。

新型コロナワクチンの累積供給量（週次）

○ 9月5週時点で、2026/27シーズン（令和8年度）の供給量の8割を超える約584万回分が出荷される見込み。

【令和8年8月25日時点】

万回分



注1：週の表示は金曜日を基準としている（例えば、9月5週は、10/2時点の供給量を示している）

注2：2026/27シーズン（令和8年度）の新型コロナワクチンの供給を見込む各企業からのヒアリング情報をもとに作成。一部の医薬品については、薬事承認申請中であり予定の情報である。

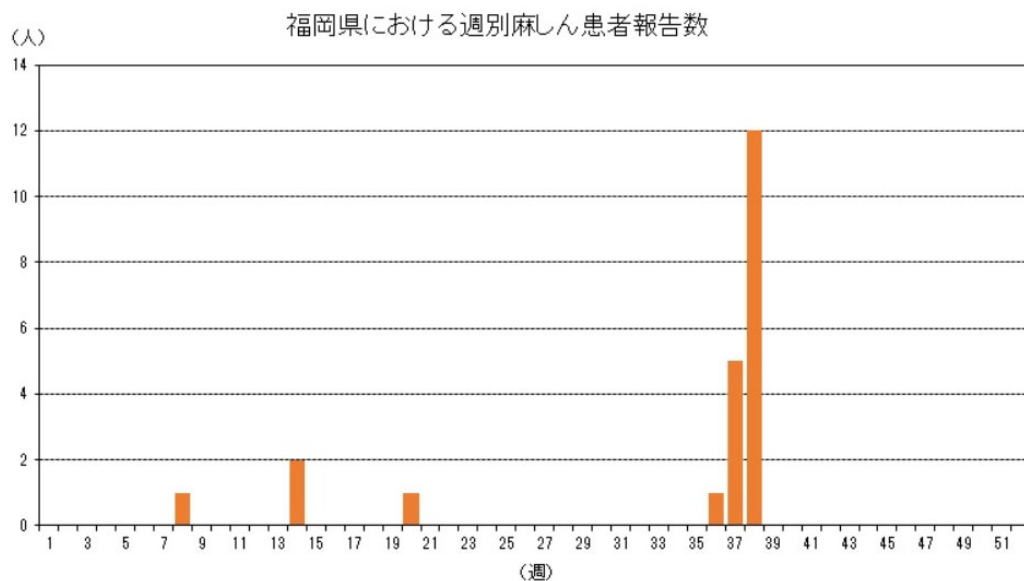
注3：使用量は医療機関への納入数量を基に算出

福岡県麻疹発生情報

※データは速報値として公開するものであり、後日修正される場合があります。

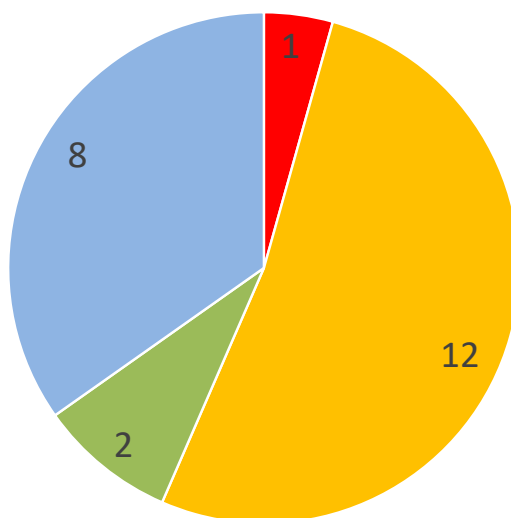
令和8年第38週（令和8年9月14日～令和8年9月20日）において、福岡県では麻疹の12件の報告がありました。

■令和8年



出典：福岡県感染症情報 (https://www.fihes.pref.fukuoka.jp/~idsc_fukuoka/measles.html)

令和8年麻疹累積報告数（保健所設置市別）



■ 北九州市 ■ 福岡市 ■ 久留米市 ■ 県域

ま 麻しん (はしか) に

ちゅうい
ご注意ください

高熱
せき
鼻水



症 状

感染すると約10日後に発熱やせき、鼻水といったかぜのような症状が現れます。

2～3日熱が続いた後、39℃以上の高熱と発しんが出現します。肺炎、中耳炎を合併しやすく、患者1,000人に1人の割合で脳炎が発症すると言われています。

感 染 経 路

空気感染等により、簡単に人から人に感染します。麻しんの免疫が不十分な人が感染すると、高い確率で発症します。

麻しんかな？と思ったら

医療機関に電話等で麻しんの疑いがあることを伝え以降は医療機関の指示に従ってください。医療機関への移動の際は公共交通機関の利用を可能な限り避けてください。

予 防 方 法

ワクチン接種が有効です。定期接種対象者（1歳児、小学校入学前1年間の幼児）、医療・教育関係者、海外渡航を計画している方は、予防接種が済んでいるかご確認ください。



海外での感染にもご注意ください

詳しくは、厚生労働省ホームページをご覧ください



第1期 麻しん風しんワクチン接種状況

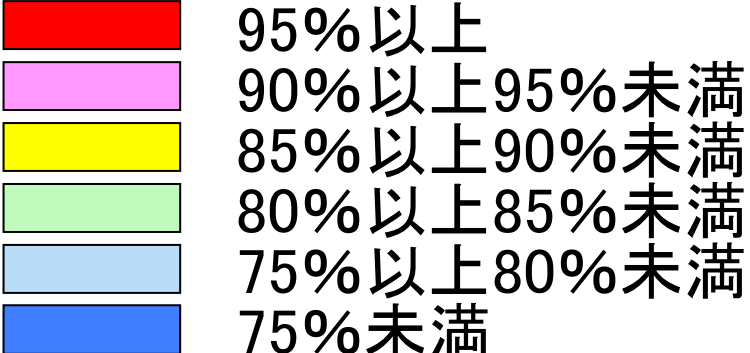
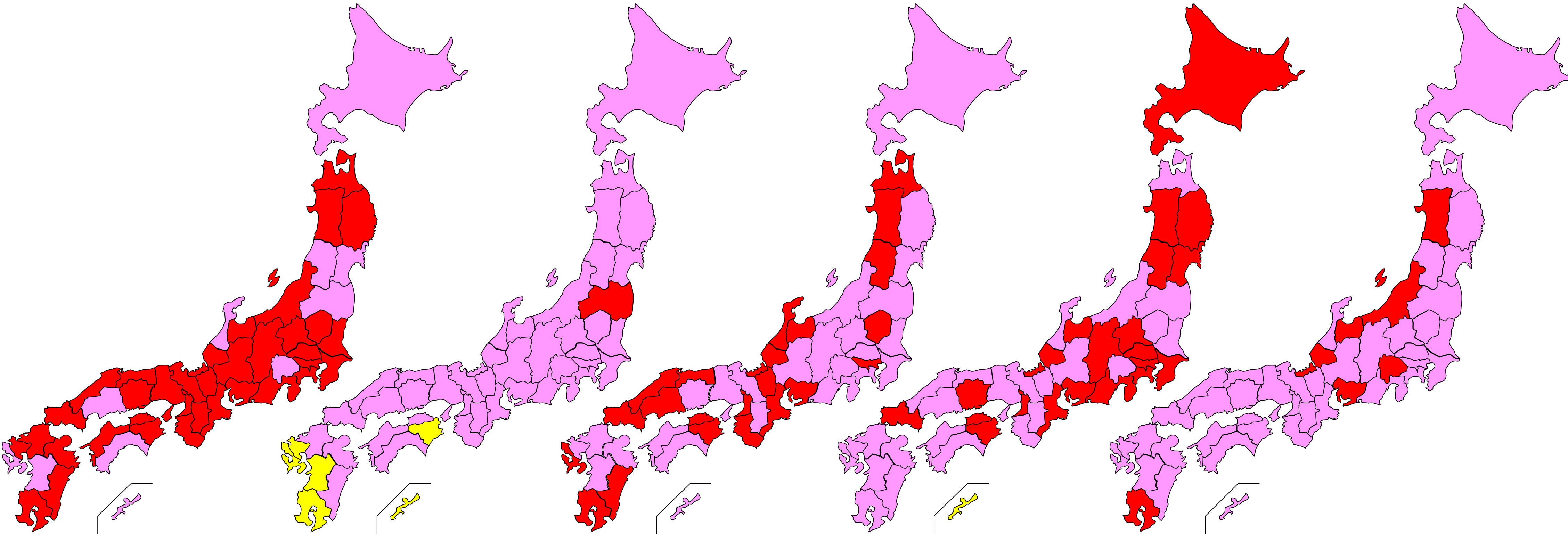
令和07年度
(2025年度)
麻しんワクチン接種率
96.2%
風しんワクチン接種率
96.2%

令和06年度
(2024年度)
麻しんワクチン接種率
92.7%
風しんワクチン接種率
92.7%

令和05年度
(2023年度)
麻しんワクチン接種率
94.9%
風しんワクチン接種率
94.9%

令和04年度
(2022年度)
麻しんワクチン接種率
95.4%
風しんワクチン接種率
95.4%

令和03年度
(2021年度)
麻しんワクチン接種率
93.5%
風しんワクチン接種率
93.5%



※麻しんワクチン接種率(%)
=(麻しん風しん混合ワクチン接種者数+麻しん単抗原ワクチン接種者数)/接種対象者数×100
※「麻しん風しん混合ワクチン接種者数+麻しん単抗原ワクチン接種者数」には特例措置による接種者数を含む

※風しんワクチン接種率(%)
=(麻しん風しん混合ワクチン接種者数+風しん単抗原ワクチン接種者数)/接種対象者数×100
※「麻しん風しん混合ワクチン接種者数+風しん単抗原ワクチン接種者数」には特例措置による接種者数を含む

※地図は麻しんワクチン接種率に基づく色分け

第2期 麻しん風しんワクチン接種状況

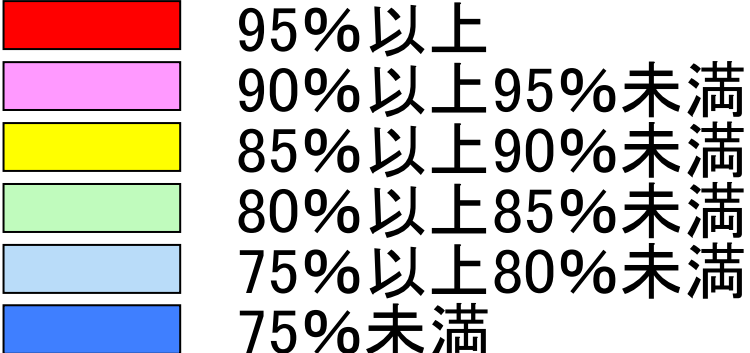
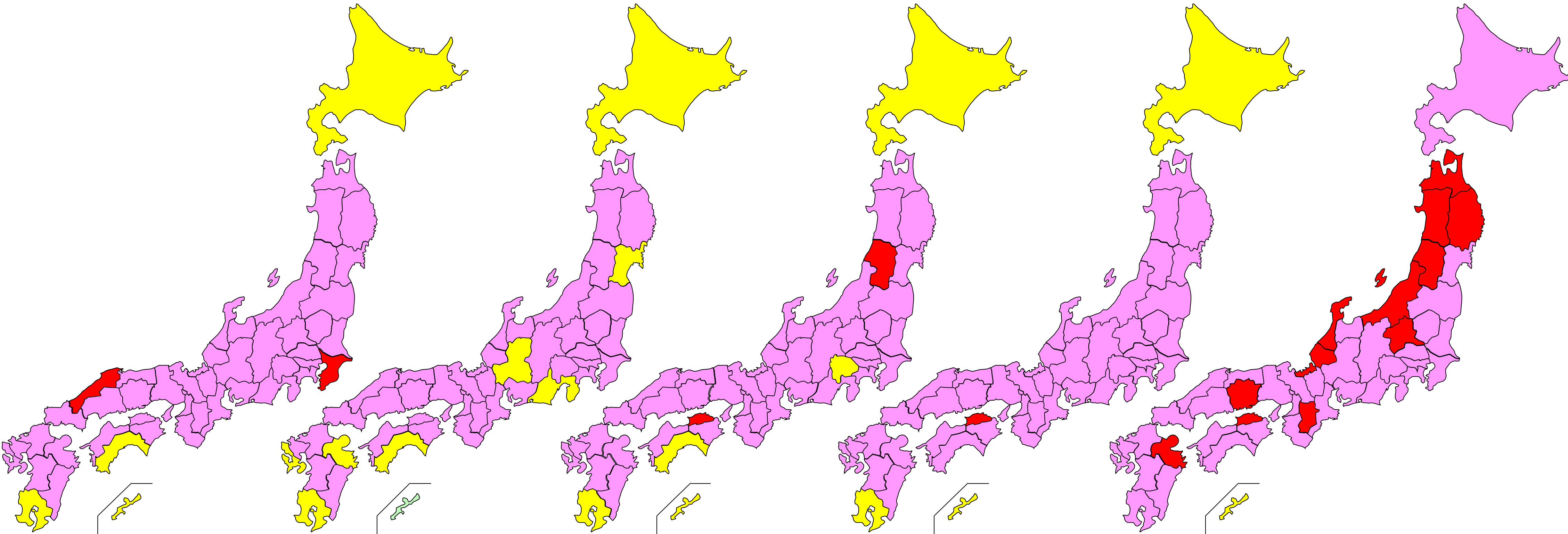
令和07年度
(2025年度)
麻しんワクチン接種率
92.7%
風しんワクチン接種率
92.7%

令和06年度
(2024年度)
麻しんワクチン接種率
91.0%
風しんワクチン接種率
91.0%

令和05年度
(2023年度)
麻しんワクチン接種率
92.0%
風しんワクチン接種率
92.0%

令和04年度
(2022年度)
麻しんワクチン接種率
92.4%
風しんワクチン接種率
92.4%

令和03年度
(2021年度)
麻しんワクチン接種率
93.8%
風しんワクチン接種率
93.8%



※麻しんワクチン接種率(%)
=(麻しん風しん混合ワクチン接種者数+麻しん単抗原ワクチン接種者数)/接種対象者数×100
※「麻しん風しん混合ワクチン接種者数+麻しん単抗原ワクチン接種者数」には特例措置による接種者数を含む

※風しんワクチン接種率(%)
=(麻しん風しん混合ワクチン接種者数+風しん単抗原ワクチン接種者数)/接種対象者数×100
※「麻しん風しん混合ワクチン接種者数+風しん単抗原ワクチン接種者数」には特例措置による接種者数を含む

※地図は麻しんワクチン接種率に基づく色分け